

行政視察報告書

令和7年11月7日

長浜市議会議長 伊藤 喜久雄 様

長浜市議会議員 田中 真浩

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 観察等名 令和7年度総務教育常任委員会行政視察研修
2. 観察期間 令和7年10月21日（火）～10月22日（水）
3. 観察場所及び目的
 - ①東京都荒川区
不登校支援について
 - ②茨城県石岡市
廃校の利活用について
4. 調査内容感想等

① 荒川区は東京23区の中では2番目に面積が小さく 10km²で長浜市の1/6にも満たない。その中に長浜市の約2倍の21万人が暮らしている。山地はなく全域がほぼ平地で東京23区の中では比較的治安がよいほうである。この環境が子供たちにどう影響するのかなどのデーターは見つけられなかったが荒川区では令和5年の時点で500名程度の不登校児童生徒がいて対策を講じられている。荒川区人口21万人の中での500名、長浜市11.4万人の中の360名を単純に考えると長浜の方が問題は根深いのか。荒川区では文科省のCOCOLOプランの理念をもとに「不登校支援ガイドライン」を改訂し問題にあたっている。

荒川区は不登校児童・生徒の増減については大きな問題としてとらえずむ

しろ子供たちが学校の内外を問わず相談する術を持たず孤立し不安定な状態が続いていることこそ問題であり、喫緊の課題と考えことにあたっている。その理念は「一人の子どもも孤立させない」ことであり「社会的自立」をゴールとすること。

そんな中で学校・家庭・地域がそれぞれに役目を持ちいくつかの施策を講じている。子供たちと繋がりを保つため、寄り添い支援することを旨とし不登校ガイドラインを基に登校サポートルームを全校に設置しフリースクールなどの補助金制度を創設したりしている。他にも様々な施策がなされており長浜市が参考にすべきものは多いと感じる。

教師に向けたガイドラインの中には参考になるものが多いと感じた。担任だけでしょい込まず、学校全体で、そしてスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等を有効に活用し子供たちを守っていくということが記されておりとにかく不登校児童・生徒は担任一人の責任ではないということを意思づけるようになされている。

感想

荒川市のガイドラインは文科省のCOCOLOプランに基づいていて進められているが、東京という恵まれた財政力の中でおこなわれているため様々な施策を打つことができるが長浜のように財政力が豊かとはいえない自治体ではおのずとできることに制限が引かれてしまう。しかし将来の財産である子供に対することは効率よくそして優先的に考えていくべきだと考えます。

- ② 石岡市は人口7万人山あり、街ありで長浜市と規模としては近いともいえる。合併により学校の統合などで廃校となった小学校が複数個所ありこれを利用する方法として官民対話、官民連携を旨とし活用方法をヒヤリングではなくサウンディング調査しみんかんの活力導入に努められている。
サウンディング調査を行うにあたり4つの基本要件を明示されています。
- 1・新たな市の負担はゼロ（20%削減を目指す）
 - 2・経営計画の明示

3・事業計画の立案

4・法令順守

以上基本要件の中でもとりわけ最重点としたのは 1・の新たな市の負担はゼロで新たな財政支出また維持経費の増加を伴わないことで廃校の処理をするうえで長浜が参考にすべきものであると思う。石岡市では 4 校の廃校がありこれから多くの廃校の発生が見込まれるが基本的にサウンディング方式で利活用の有効利用が整わないものは解体となる。

そんな中で廃校を活用し年々増える不登校児童生徒に対する支援や相談機能の集約を目的とした教育支援センターを設立している。

実際に施設を見学したが、職員みんなが心から不登校児童生徒に真摯に向かい合っている印象を持った。

組織もよく考えられていて、支援学級としてあすなろ教室・ひまわり教室があるのはよくあることだが、感心したのは相談部門がよく整備されていることで特別支援アドバイザー・スクールソーシャルワーカー・日本語指導員、等がおかかれている。児童生徒、両親、ご家族多種多彩な問題すべてに相談できる施設を目指したと説明されました。

感想

長浜市も石岡市同様廃校が多数発生するはずである。長浜に限らず人口が減少する自治体では日本国中廃校だらけになるはずで全てが再利用できるわけではなく、むしろ再利用できないものの方が圧倒的に多いと考えられる。そう考えれば何とかして使う方法を考えることに心血注ぐよりいかに効率よく解体していくかが課題であり。将来の負担を考えるならいざれ近い将来必要のなくなる建物をとにかく立てないことも考慮すべき。学校で言うなら、人口減少を止められないなら学校は大統合を行い生徒数百人規模にして半世紀は廃校にならない規模にするべきだと思う。

支援学級はたいへん力を入れ運営されていて好感が持てた。目的の第一はとにかく一人ぼっちにさせないこと、人との繋がりを切れさせないことと言っておられたがあまり居心地が良すぎて温室状態の中で育つと本当に社会へ出でていけるのだろうかと危惧する。職員さんにその話をしたところ、「私たち

もそのことが心配だし、実際社会に出ていけない児童生徒もおおいだろう、
しかしながらここではとにかく、引きこもらない・人との繋がりを切れさせ
ないことに重点が置かれそのあとのこととは、心配だけど私たちの権限が及ば
ないところなんです。」とおっしゃっておられたのが印象的でした。この問題
は考えれば考えるほど根が深く難しいと考えさせられた。
